

雨庭

～地域の未来と子どもの未来の共創～

RAIN GARDEN



作業日： 令和7年3月24日
施工箇所： 八女市高塚495番地

 株式会社木下組

雨庭

～地域の未来と子どもの未来の共創～

RAIN GARDEN

昨今、九州地方に限らず当たり前のように線状降水帯発生ニュースを耳にする。八女地方も例外ではなく、平成24年九州北部豪雨災害による甚大なる被害を経験している。

豪雨災害に関する減災対策を本気で意識するようになったのは最近のことではあるが、きっかけは熊本県立大学島谷特別教授による講演を拝聴してからとなる。

多自然型川づくりに尽力され、学生はもちろん地域の住民の方も巻き込み多くの方と共に『共創』をテーマに多くの取り組みを行われてある。

弊社は、昨年自走式土質改良機の導入を行いN23-ATTACの製造販売を開始した。製造施設にて、ストックを設け大量販売は勿論少量販売にも対応できる体制を構築している。

全国トース技術研究組合に加盟している中、自社での研究という面では実績がなく今回初めて雨庭を設置し経過観察と共に実証実験を行うこととした。

建設業者だからできるや、水溜まりをつくって何の効果がある、そもそも雨庭とはなんだとの声が上がっても何も実例がないと何も返答ができないし、雨庭を拡散し流域治水の実現はできないと考え雨庭設置を始めた。

今回の雨庭にはN23-ATTACトース土を使用し、土の浸透能力及び保水能力がどの程度の雨庭に効果を発揮するかを研究テーマとして掲げた。

構造は至って単純、屋根(6.0m×6.0m=36.0㎡)に降雨した雨水を集水し雨どい、水路を通じて縦穴(N23-ATTAC)へ誘水し地下への雨水浸透を目的とする。

建設機械は一切使用せず、人力のみでどこでも誰でも簡単に設置できる構造とした。今回は大人1人子供3人で作業を進め、休憩をとりつつ2時間程度で作業を終えることができた。

今後は、雨水浸透状況の観察を行い、景観にも配慮した雨庭づくり(第二弾)に取り組むと共に、八女市や地域住民と一緒に「共創」雨庭づくりのワークショップ等を検討しています。



NO,	1
雨庭づくり	
R7.3.24	
雨庭縦穴床掘状況	
水みちをづくり縦穴へ流水	
以前の雨水は河川に	
直接放流していた。	
撮影	



NO,	2
雨庭づくり	
R7.3.24	
雨庭縦穴掘削状況	
掘削時に出た石は	
再利用する。	
撮影	



NO,	3
雨庭づくり	
R7.3.24	
雨庭縦穴掘削状況	
撮影	



NO, 4

雨庭づくり

R7.3.24

雨水水みち石設置状況
 (石は水の浸透流水の妨げ
 とならないよう立てて設置)

撮影



NO, 5

雨庭づくり

R7.3.24

子どもでも安全に
 作業することができる。
 遊びと治水の共創

撮影



NO, 6

雨庭づくり

R7.3.24

子どもでも大人でも
 簡単につくれる雨庭。
 地域ワークショップ開催を
 検討しています。

撮影



NO,	7
雨庭づくり	
R7.3.24	
流水による浸食を防止 するため周辺の落葉を敷設。 土が固まり浸透能の低下を 防止する役割も担う。	
撮影	



NO,	8
雨庭づくり	
R7.3.24	
縦穴床掘後通水を行い 床掘面が浸透する層 (砂礫等)であるか確認。 (今回はH=600)	
撮影	



NO,	9
雨庭づくり	
R7.3.24	
縦穴埋戻し時は落葉を再利用し N23ATTACTース土とミルフィーユ状の 層を設置し浸透時の土の固まりを 抑制する効果を期待した。(検証中) (落葉は落葉樹○針葉樹×)	
撮影	



NO, 10

雨庭づくり

R7.3.24

平地は縦穴に向け

勾配を取りt=100程度

鋤取りトース土敷均しを行った。

転石設置、植物移植

空調ドレンを放流

撮影



NO, 11

雨庭づくり

R7.3.24

一方の水路はロックポットを

設置し、ロックポット内へは

トース土にて埋戻し箇所

球根・種を設置して埋戻しを

行い経過観察することとした。

撮影



NO, 12

雨庭づくり

R7.3.24

完成

経過観察中

撮影



NO, 12
雨庭づくり
R7.3.24
屋根の雨水を河川放流から 雨庭への放流と変える
屋根面積A=36㎡
撮影



NO, 13
雨庭づくり
R7.3.24
水路を設け縦穴への誘水
撮影



NO, 14
雨庭づくり
R7.3.24
雨庭内浸透箇所
撮影